

□主な内容

【第 50 回 EST 脱炭素交通創発セミナーを開催します！】

2026 年 2 月 16 日に、「交通分野の脱炭素化のこれまでとこれから」と題して、第 50 回 EST 脱炭素交通創発セミナーを開催します。今回のセミナーでは、これまで開催してきた「EST 創発セミナー」を「EST 脱炭素交通創発セミナー」と名称変更した上で、過去に EST 交通環境大賞を受賞した団体のその後の取組紹介を盛り込むことで、応募・受賞の意義について考え、交通分野の脱炭素化を推し進めるための契機とします。皆様のご参加をお待ちしています！

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu81.html>

□目次

1. ニュース／トピックス

- 第50回EST脱炭素交通創発セミナー「交通分野の脱炭素化のこれまでとこれから」を開催します！【EST普及推進委員会、エコモ財団】
- バス会社による日本版ライドシェアのトライアル運行を行います【国土交通省、東急バス】
- 運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業の公募結果について【環境省】
- 空港駐車場の混雑緩和に向けた取組みを推進します ～円滑な空港アクセス確保による利用者利便の向上～【国土交通省】
- 空港制限区域内における搬送用車両の自動運転レベル4が実用化！【国土交通省】
- 令和7年度ゼロエミッション船等の建造促進事業公募の採択結果について【環境省】
- 船舶へのモーダルシフト推進にご活用ください！ ～中・長距離フェリー、RORO船及び内航コンテナ船に係る積載率動向について～【国土交通省】
- 令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について【国土交通省】
- 鉄道の環境優位性の理解促進に向けたPRポスターの掲出を開始しました【日本民営鉄道協会、JRグループ、日本地下鉄協会】
- 千葉県初！自動運転車（レベル4）による運行を開始します【関東運輸局】
- エコ交通応援キャンペーンが始まりました！【滋賀県】
- 自動運転EVバスを活用した2025年度有償運行を開始【豊見城市、第一交通産業、日本電気、電脳交通、ティアフォー】
- 自動運転レベル4の実用化を目指して、横須賀市で大型路線バスによる実証を開始【横須賀市、京浜急行バス、ソフトバンク】
- 公共ライドシェア「みくたく」について【大和高田市】

- 『いいやまライドシェア』の実証実験を開始【飯山市】
- 「御代田町公共ライドシェア」の実証運行を開始【御代田町】
- 黒島地区公共ライドシェア実証実験を行っています！【佐世保市】
- 隣接自治体での共同による広域連携型公共ライドシェアの実証運行を開始【笠置町、南山城村、京都府、WILLER】
- AIオンデマンド交通の実証運行を開始【東通村】
- 東部地区において、デマンド型交通の社会実験を実施します！【郡山市】
- 日本版ライドシェアによる乗合交通「イコーデ」始まります【真庭市】
- 仙台市の2エリアにおいて自動運転バスの実証実験を開始【NTTドコモビジネス、NTTアドバンステクノロジほか】
- AIオンデマンドバスと路線バスの乗継提案を「ひとつのアプリ」で完結する新機能を実装【会津乗合自動車、みちのりHD】
- 野沢温泉村を発着地とするライドシェア実証実験を行います【JR東日本、野沢温泉マウンテンリゾート観光局、AMANE】
- 日産自動車とサッポログループが共同で関東～九州間の海上輸送を開始【日産自動車、サッポログループ物流】
- 共同輸配送の実証開始【九州物流研究会、Hacobu】
- 列車荷物輸送サービス「はこビュン」の事業拡大を通じてライフスタイル・トランスフォーメーション(LX)を推進 ～日本初の荷物専用新幹線の運行開始～【JR東日本】
- 高齢者の免許返納を支援する「おためし車無し生活」実証実験に参画【チャリチャリ、セーフライド】
- 公共交通のサービス向上のための新たな公共交通法が起草【ブルガリア】
- マドリッド回廊のシェアリング交通と公共交通を促進するための新しい高乗車率車両レーンの導入実験が開始【マドリッド】
- ラトビアの空港で自動運転ロボシャトルの開発が開始【Carguru、Imagry】

2. イベント情報

- 第 50 回 EST 脱炭素交通創発セミナー「交通分野の脱炭素化のこれまでとこれから」【2026/2/16】
- 地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト【2026/1/9、23】
- 鉄道博 2026【2026/1/10～12】
- マチミチ study 現地勉強会 in 四日市【2026/1/14】
- 地域循環共生圏セミナー2025 第 3 回交通×環境 地域交通課題から始まる住民主体の地域づくり【2026/1/14】
- 公共交通シンポジウム「運転者不足時代の公共交通を考える ～自治体×事業者×広域連携の可能性～」【2026/1/16】

- NPO 法人再生塾 令和7年度北陸ワンデーセミナー ～総合的な交通政策を進めるために～【2026/1/25】
- 道路の脱炭素をインスパイアするフォーラム【2026/1/26】
- グリーン経営認証取得講習会【2026/2/17】

3. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. ニュース／トピックス

●第 50 回 EST 脱炭素交通創発セミナー「交通分野の脱炭素化のこれまでとこれから」を開催します！【EST 普及推進委員会、エコモ財団】

EST 普及推進委員会とエコモ財団は、環境的に持続可能な交通（EST）の普及推進を図ることを目的に、2026 年 2 月 16 日に第 50 回 EST 脱炭素交通創発セミナー「交通分野の脱炭素化のこれまでとこれから」を開催します。

今回のセミナーでは、まちづくりと交通計画の連携による脱炭素的交通政策に関する講演、第 15 回まで続けてきた「EST 交通環境大賞」の受賞団体のその後の取組紹介とともに、意見交換を通じて EST や交通脱炭素化の社会実装における要件や課題について議論します。

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu81.html>

●バス会社による日本版ライドシェアのトライアル運行を行います【国土交通省、東急バス】

国土交通省は、交通政策審議会陸上交通分科会自動車部会において、バス・鉄道事業者からの日本版ライドシェアへの関心の高まりを受け、参画の課題等を精査するために、全国 5 か所におけるトライアル運行を実施します。このうち東急バス株式会社が、12 月 3 日より東京都品川区・大田区等において、トライアル運行を開始しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/jidosha03_hh_000487.html

●運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業の公募結果について【環境省】

環境省は、2025 年 7 月から 8 月にかけて行っていた「運輸部門の脱炭素化に向けた先進的システム社会実装促進事業」の公募に関して、3 件の応募があり、審査の結果 2 件を採択しました。

本事業は、運輸部門の脱炭素化に資する技術の社会実装を促進するための開発・実証を行い、運輸部門の脱炭素化を加速させ、脱炭素社会の早期実現に貢献することを目的として実施しています。

https://www.env.go.jp/press/press_00853.html

●空港駐車場の混雑緩和に向けた取組みを推進します ～円滑な空港アクセス確保による利用者利便の向上～【国土交通省】

国土交通省は、国管理空港を対象として、駐車場料金に係る国の審査の新たな運用方針を示しつつ、各空港の状況に応じ、料金施策による需要コントロールや立体駐車場の整備、公共交通の利用促進といった必要な混雑対策を早急に講じるよう、駐車場運営者等に促す取組策を公表しました。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kouku05_hh_000238.html

●空港制限区域内における搬送用車両の自動運転レベル4が実用化！【国土交通省】

国土交通省は、東京国際空港及び成田国際空港において、自動運転レベル 4 でのトーイングトラクターが実用化されたことを発表しました。なお、東京国際空港においては、国土交通省が、信号設備やカメラ等の共通インフラの整備を行っています。

本取り組みは、空港業務の生産性向上が必要とされていることを踏まえ、国土交通省が官民連携で進めてきた空港制限区域内における手荷物・貨物・旅客の輸送を想定した自動運転導入の一環です。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kouku09_hh_000302.html

●令和7年度ゼロエミッション船等の建造促進事業公募の採択結果について【環境省】

環境省は、令和7年度ゼロエミッション船等の建造促進事業の公募の結果として、6 件を採択しました。

本事業は、水素、アンモニア、LNG、メタノール及び電力を動力源とする船舶（ゼロエミッション船等）の国内生産体制を世界に先駆けて構築し、ゼロエミッション船等の市場導入を促進することで CO₂ の排出削減を進めるとともに産業競争力強化・経済成長を図ることを目的としています。

https://www.env.go.jp/press/press_01523.html

●船舶へのモーダルシフト推進にご活用ください！ ～中・長距離フェリー、RORO 船及び内航コンテナ船に係る積載率動向について～【国土交通省】

国土交通省は、中・長距離フェリー、RORO 船及び内航コンテナ船に係る積載率の動向（2025 年 7～9 月実績）の調査結果を公表しました。

あわせて、フェリー、RORO 船、コンテナ船の 3 つの船種における内航海運のサービスや利用方法、利用検討に向けた手順、内航船を利用することのメリットなどを掲載した「内航海運へのモーダルシフト利用検討ガイド」及び、各社が提供している航路情報をまとめた「航路情報一覧」を 5 月より公表しています。

https://www.mlit.go.jp/report/press/kaiji03_hh_000208.html

●令和7年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について【国土交通省】

国土交通省は、物流危機への対応やカーボンニュートラルの実現を図るため、「自動物流道路」の構築を目指し、令和 7 年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験を開始しました。

本実験は、国土技術政策総合研究所および参画企業の施設内で行われ、道路空間に物流専用スペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段により荷物を運搬する新たな物流システムの構築を推進するものです。

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_002014.html

●鉄道の環境優位性の理解促進に向けたPRポスターの掲出を開始しました【日本民営鉄道協会、JRグループ、日本地下鉄協会】

日本民営鉄道協会、JRグループ、日本地下鉄協会は、環境にやさしい鉄道への理解促進を図るため、3者で連携し共通のPRポスターを展開中です。

本取り組みは、2023年度に日本民営鉄道協会とJRグループが、鉄道の環境優位性のPR強化に向けたコンセプトを策定し、共通ロゴマークとスローガンを定めてポスターによる告知展開が始まりました。2025年度は、鉄道がどのくらい環境に優しいのかをよりわかりやすく遡及するため、絵柄と具体的数値を用いたポスターデザインに一新し、3者に所属・加盟する各社の駅などで、ポスターを掲出しています。

<https://www.mintetsu.or.jp/association/news/2025/23584.html>

●千葉県初！自動運転車(レベル4)による運行を開始します【関東運輸局】

関東運輸局は、東武バスセントラル株式会社が柏市内において実施する自動運転車(レベル4:運転車を必要としない)による運行を認可しました。

本運行は、2026年1月に開始予定です。なお、東京大学柏キャンパスの関係者等を対象としているため、一般利用者は乗車出来ません。

<https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/content/000363288.pdf>

●エコ交通応援キャンペーンが始まりました！【滋賀県】

滋賀県は、公共交通機関の利用促進等を目的として、「エコ交通応援キャンペーン」を実施しています。実施期間は2026年3月31日までです。

県内の対象美術館や博物館へ鉄道・バス・自転車などのエコ交通を利用し、その様子をSNSに投稿すると各施設で特典がもらえます。

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/koho/e-shinbun/oshirase/347644.html>

●自動運転EVバスを活用した2025年度有償運行を開始【豊見城市、第一交通産業、日本電気、電脳交通、ティアフォー】

豊見城市、第一交通産業株式会社、日本電気株式会社、株式会社電脳交通、株式会社ティアフォーの5者は、豊見城市内で自動運転EVバスの実証運行を開始しました。実証期間は2026年2月15日です。

自動運転EVバスは、豊見城市の生活路線である全長28.2kmの豊見城市内一周線(105番)のうち、約18kmの区間を対象に運行します。

<https://www.city.tomigusuku.lg.jp/soshiki/6/1025/gyomuannai/9170.html>

●自動運転レベル4の実用化を目指して、横須賀市で大型路線バスによる実証を開始【横須賀市、京浜急行バス、ソフトバンク】

横須賀市、京浜急行バス株式会社およびソフトバンク株式会社は、「横須賀市路線バス自動運転導入プロジェクト」の実現に向けてコンソーシアムを設立し、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業費補助金（自動運転社会実装推進事業）」に採択されたことを受けて、本プロジェクトに取り組んでいます。

本プロジェクトでは、自動運転バスの走行に関する実証を、京浜急行電鉄 YRP 野比駅と ICT 技術の研究開発拠点「横須賀リサーチパーク(YRP)」を結ぶバスの既存路線において、2025 年 12 月 1 日に開始しました。

本実証では、1 台の大型路線バスによる自動運転レベル 2 での走行を行い、2027 年度中の自動運転レベル 4 での走行を見据えて取り組みを推進します。また、2028 年度には 2 台の自動運転車両が連なって走行する隊列走行技術を用いた路線バスの実用化を目指します。

<https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4805/nagekomi/20251216zidounten.html>

●公共ライドシェア「みくたく」について【大和高田市】

大和高田市は、住民や当市を訪れた方々の移動の利便性を向上させ、通院・お出かけ・お買い物がより気軽に出来るよう、タクシー事業者との共同運営による自家用車を活用した公共ライドシェアの実証実験を開始しました。実証期間は 2026 年 1 月 31 日までです。

本実証実験では、利用者からの配車リクエストを地域のタクシー事業者に優先的に通知し、タクシーでの対応が難しい場合に限りライドシェアを配車する「タクシー優先配車機能」を有するアプリケーションを用いています。

<https://www.city.yamatotakada.nara.jp/soshikikarasagasu/machishinkoka/1/9419.html>

●『いいやまライドシェア』の実証実験を開始【飯山市】

飯山市は、冬季に増加するインバウンド需要に対応可能なタクシー車両台数を確保するため、飯山駅を中心に広域的な運行が可能な「いいやまライドシェア」の実証実験を開始しました。実証期間は 2026 年 3 月 31 日までです。

https://www.city.iiyama.nagano.jp/soshiki/kikakuzaisei/54359/public_traffic/ride-sharing

●「御代田町公共ライドシェア」の実証運行を開始【御代田町】

御代田町は、町民の移動に関する利便性を向上させ、通院・お買い物・習い事の送迎等がより気軽にできるよう、自家用車等を活用した「御代田町公共ライドシェア」の実証運行を開始しました。実証期間は 2026 年 1 月 31 日です。

<https://www.town.miyota.nagano.jp/category/pressrelease/185514.html>

●黒島地区公共ライドシェア実証実験を行っています！【佐世保市】

佐世保市は、黒島地区において「公共ライドシェア」の導入に向けた実証実験を開始しました。実証期間は 2026 年 1 月 16 日までです。

本実験は、島内に公共交通機関がないため、住民や観光客の移動手段の確保という長年抱える課題の解決に向けた取り組みです。

<https://www.city.sasebo.lg.jp/tiikimirai/koukou/kuroshima.html>

●隣接自治体での共同による広域連携型公共ライドシェアの実証運行を開始【笠置町、南山城村、京都府、WILLER】

笠置町は、南山城村と京都府と連携し、南山城村で実施されているデマンド交通「村タク」の実証事業を開始しました。実証期間は 2026 年 3 月 31 日までです。

https://www.town.kasagi.lg.jp/contents_detail.php?co=new&frmId=1973

●AI オンデマンド交通の実証運行を開始【東通村】

東通村は、予約型の乗合タクシー（AI オンデマンドタクシー）の実証運行を開始しました。実証期間は 2026 年 3 月 31 日までです。

本取り組みは、「泊（六ヶ所村）～東通村～むつ市」を運行する下北交通（泊線）の運行便数が 10 月より減便したことから、空白となった時間帯に対して移動手段を確保することを目的としています。

<http://www.vill.higashidoori.lg.jp/files/100868756.pdf>

●東部地区において、デマンド型交通の社会実験を実施します！【郡山市】

郡山市は、東部地区において自宅からバス停や駅が遠い「公共交通空白地」を解消するため、「ワンボックス型車両」を活用した事前予約制の「デマンド型交通」の社会実験を開始しました。実験期間は 2026 年 1 月 31 日までです。

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/125/161887.html>

●日本版ライドシェアによる乗合交通「イコーデ」始まります【真庭市】

真庭市は、北房地域の新しい交通として、オンデマンド配車システムを利用した予約型の乗合交通「イコーデ」の実証運行を2026年1月7日から開始します。

本実証運行では、お店、病院、公共施設、自治会施設が停留所となっており、停留所間の移動に関して自由度が高くなっています

<https://www.city.maniwa.lg.jp/soshiki/12/109125.html>

●仙台市の 2 エリアにおいて自動運転バスの実証実験を開始【NTT ドコモビジネス、NTT アドバンステクノロジーほか】

NTT ドコモビジネス株式会社、NTT アドバンステクノロジー株式会社、株式会社 NTT データ経営研究所、パナソニックコネクト株式会社、ドコモ・テクノロジー株式会社、株式会社タケヤ交通、先進モビリティ株式会社、株式会社 NTT ドコモ、の 8 社で構成されるコンソーシアムは、国立大学法人東北大学、仙台市と連携し、自動運転バスの走行に関する実証実験を実

施しています。本実証は、仙台市内の2つのルートで順次実施し、沿岸部を走行する東部北ルートは実施済み、山間部を走行する秋保ルートは2026年1月19日～1月30日に運行予定です。

津波避難が想定される沿岸部と、通信が不安定になりやすい山間部という異なる環境において、複数キャリア回線やローカル 5G の併用、都市 OS とのデータ連携により、安全な自動運転サービスの実現可能性を検証します。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000360.000023654.html>

●AI オンデマンドバスと路線バスの乗継提案を「ひとつのアプリ」で完結する新機能を実装【会津乗合自動車、みちのりHD】

会津乗合自動車株式会社、株式会社みちのりHD は、「MyRideどこでもバス」のアプリに、AI オンデマンドバスと路線バスのルート検索・乗継提案および AI オンデマンドバスの予約を一体化した新機能「えらべるナビ」を実装しました。

今回の新機能により、利用者はアプリひとつで「どこでもバスのみのルート」「路線バスのみのルート」「どこでもバス＋路線バスの乗継ルート」など複数の移動ルートをまとめて比較し、希望に合わせて選ぶことができるようになります。さらに、どこでもバスは検索後そのまま予約まで完結します。

[illegible]

●野沢温泉村を発着地とするライドシェア実証実験を行います【JR 東日本、野沢温泉マウンテンリゾート観光局、AMANE】

東日本旅客鉄道株式会社、(一社)野沢温泉マウンテンリゾート観光局、株式会社AMANE は、野沢温泉村を発着地とする公共ライドシェアの実証実験を開始しました。実証期間は2026年2月28日までです。

本取組みは、野沢温泉村の社会課題である、スキーシーズンの訪日観光客の増加に伴う観光客や地域住民の移動手段の不足解消を目指しています。

https://www.jreast.co.jp/press/2025/20251127_ho03.pdf

●日産自動車とサッポログループが共同で関東～九州間の海上輸送を開始【日産自動車、サッポログループ物流】

日産自動車株式会社とサッポログループ物流株式会社は、日産自動車が保有する専用フェリーを活用した海上輸送を共同で開始しました。

本取組みは、往路で車両部品を積載していたシャーシに、復路ではサップロビール製品を積載して輸送することで、フェリーの積載効率を高めて輸送の効率化を図るとともに、CO₂ 排出量の低減を同時に実現します。

<https://global.nissannews.com/ja-JP/releases/251201-00-j>

●共同輸配送の実証開始【九州物流研究会、Hacobu】

九州物流研究会と株式会社 Hacobu は、福岡県・佐賀県における共同輸配送の取組みを一層強化するため、実証実験「物流 DX ツールを活用した N 対 N の相互配車事業」を開始しました。実運行は 2026 年 1 月～2 月の予定です。

本実証では、九州物流研究会に参画する小売 6 社分の膨大な輸配送ルート候補を、Hacobu が提供するクラウド物流管理ソリューション「MOVO」シリーズのデータ活用基盤で解析し、共同輸配送の実行可能性を検討します。

<https://hacobu.jp/news/17880/>

●列車荷物輸送サービス「はこビュン」の事業拡大を通じてライフスタイル・トランスフォーメーション(LX)を推進 ～日本初の荷物専用新幹線の運行開始～【JR 東日本】

JR 東日本グループは、2026 年 3 月 23 日より盛岡新幹線車両センター・東京新幹線車両センター間で E3 系新幹線 1 編成を改造した荷物専用車両の運行を開始します。

本取組みは、「勇翔 2034」で掲げたライフスタイル・トランスフォーメーション(LX)による「地域に活力をもらい豊かな日本に」を実現すべく、新幹線や在来線による列車荷物輸送サービス「はこビュン」を活用して、地域の魅力発信や地域経済の活性化を推進することを目的としています。

https://www.jreast.co.jp/press/2025/20251209_ho02.pdf

●高齢者の免許返納を支援する「おためし車無し生活」実証実験【チャリチャリ、セーフライド】

チャリチャリ株式会社は、株式会社セーフライドが実施する「高齢者免許返納体験サポートサービス」の実証実験に参画し、参加者を対象にチャリチャリのライドチケットの提供を開始しました。

本実験は、セーフライド社が実施する、車が持たなくなったときの生活の備えとして 1 か月車無し生活を高齢者に体験してもらう取組みです。

<https://charichari.bike/blog/partners-fuk-20251215>

●公共交通のサービス向上のための新たな公共交通法が起草【ブルガリア】

ブルガリアで、都市の需要に合わせた交通サービスを展開するための新たな公共交通法が起草されました。

この法律では、郊外鉄道サービスが地域のバス時刻表と連携することで、駅が孤立した終点ではなく、複合交通ハブとして機能することを保証します。また、最低運行保証も導入され、全国で毎日少なくとも 3 本の鉄道接続を義務付け、需要の高い地域では運行頻度を高めることが義務付けられます。これにより、郊外や周縁地域へのアクセスが向上し、自動車通勤への依存度が軽減されます。

<https://www.mtc.government.bg/en/category/1/new-public-transport-act-must-guarantee-convenient-transport-every-passenger>

●マドリード回廊のシェアリング交通と公共交通を促進するための新しい高乗車率車両レーンの導入実験が開始【マドリード】

マドリードは、2026 年初頭に新しいバス HOV レーンを導入する予定です。完全運用前に数週間試験的に運用されます。

バス HOV レーン(Bus-High Occupancy Vehicle)は、ラッシュアワー時に公共交通機関、緊急車両、オートバイ、および 2 名以上の乗車定員を持つ自動車専用レーンの中で、混雑を緩和し、より積載量が多く排出量の少ない移動を優先することを目的としています。ラッシュアワー以外は、一般交通として使用されます。

<https://www.madrid.es/portales/munimadrid/es/Inicio/Actualidad/Noticias/El-nuevo-Bus-VAO-de-la-A-2-comenzara-a-funcionar-en-el-primer-trimestre-de-2026/?vgnextoid=694affc3dd33e810VgnVCM2000000321e388PCRD&vgnextchannel=a12149fa40ec9410VgnVCM100000171f5a8aPCRD>

●ラトビアの空港で自動運転ロボシャトルの開発が開始【Carguru、Imagry】

ラトビアのカーシェアサービス Carguru と米国 AI 企業 Imagry は、ラトビアのリガ空港から自由の記念碑までの往復で乗客を輸送するレベル 4 対応ロボシャトルの開発に向けて提携したことを発表しました。

最初の導入は、最大 3 人乗りの電動車両をベースに行われ、ルートはリガ空港と自由の記念碑の間の公道を走ります。最終的には 2027 年に、専用アプリを通じて予約可能な任意の目的地への乗車ができるよう拡張されます。

<https://carguru.lv/article/465>

2. イベント情報

●第 50 回 EST 脱炭素交通創発セミナー「交通分野の脱炭素化のこれまでとこれから」

日時:2026 年 2 月 16 日(月)14:30～17:50

場所:ハイブリッド開催(東京都立産業貿易センター浜松町館＋オンライン配信)

主催:EST 普及推進委員会、エコモ財団

<https://www.estfukyu.jp/sohatsu81.html>

●地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト

日時: 2026 年 1 月 9 日(金)、23 日(金) 各回 18:00～21:10

場所:オンライン開催(名古屋大学東山キャンパスにてパブリックビューイング実施)

主催:地域公共交通コーディネーター・プロデューサー養成プロジェクト事務局

<http://orient.genv.nagoya-u.ac.jp/kyoso.htm>

●鉄道博 2026

日時:2026 年 1 月 10 日(土)～12 日(月・祝)10:00～17:00(最終入場 16:30)

場所:ATC Gallery(ITM 棟 2F)

主催:テレビ大阪

<https://www.tv-osaka.co.jp/tetsudou2026/>

●マチミチ study 現地勉強会 in 四日市

日時:2026 年 1 月 14 日(水)13:00～18:00

場所:四日市商工会議所 1 階会議所ホール 1

主催:国土交通省、四日市市

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi09_hh_000127.html

●地域循環共生圏セミナー2025 第 3 回交通×環境 地域交通課題から始まる住民主体の地域づくり

日時:2026 年 1 月 14 日(水)15:00～17:00

場所:オンライン開催

主催:環境省

https://www.env.go.jp/press/press_01421.html

●公共交通シンポジウム「運転者不足時代の公共交通を考える ～自治体×事業者×広域連携の可能性～」

日時:2026 年 1 月 16 日(金)14:00～17:00

場所:日比谷コンベンションホール(後日、関東運輸局公式 YouTube で録画を配信予定)

主催:国土交通省関東運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kanto/content/000363835.pdf>

●NPO 法人再生塾 令和7年度北陸ワンデーセミナー ～総合的な交通政策を進めるために～

日時:2026 年 1 月 25 日(日)10:00～17:00

場所:ウイングウイング高岡 503 会議室

主催:NPO 法人持続可能なまちと交通をめざす再生塾

<https://saiseijuku-hokuriku.peatix.com/>

●道路の脱炭素をインスパイアするフォーラム

日時:2026 年 1 月 26 日(月)15:00～18:00

場所:東京ポートシティ竹芝ポートホール

主催:G ルートプロジェクト事務局、国土交通省道路局

https://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_002017.html

●グリーン経営認証取得講習会

日時:2026 年 2 月 17 日(火)10:00～12:00(倉庫・港湾運送・旅客船・内航海運)

13:30～15:30(トラック・バス・タクシー)

場所:オンライン開催

主催:国土交通省九州運輸局

<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/content/000363163.pdf>

3. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<https://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<https://mm-education.jp/mailmagazine.html>

- グリーンスローモビリティに関する情報を掲載しています！

https://www.ecomo.or.jp/environment/gsm/gsm_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<https://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<https://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomomo.or.jp(担当: 中道)

=====

発行: 環境的に持続可能な交通(EST)普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<https://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <https://www.estfukyu.jp/>